

貴族の時代

名前

学習日

ポイント

- ① 平安京に都が移され、貴族たちが朝廷の仕事についていた。
- ② 貴族の藤原氏が勢力をのばした。
- ③ はなやかな貴族のくらしのなかで、多くの日本独自の文化が花開いた。

基本問題



次の各文に関係の深いことがらを、ア～ウのなかから1つずつ選び、記号で答えなさい。

- (1) 藤原氏は自分のむすめを次々に天皇のきさきにし、親せき関係になることで勢力を強めました。天皇の政治を助ける役職はこのころから、藤原氏の一族が独せんするようになりました。

ア 遣隋使 イ ご恩と奉公 ウ 摂政

- (2) 現在の京都市に都が移されました。天皇の住む宮城の三方を囲んで貴族の住まいが配置され、碁盤の目のように東西南北に走る道がつけられました。

ア 平安京 イ 長岡京 ウ 平城京

- (3) 貴族たちは、それまでの唐風とはちがう寝殿造のやしきに住みました。広いやしきや庭では、1年を通して非常にたくさんの行事や儀式が行われました。

ア 平等院鳳凰堂 イ 法隆寺 ウ 銀閣

- (4) 天皇のきさきの教育係として宮廷につかえる、大変教養のある人でした。「源氏物語」などの文学作品を書きました。

ア 山上憶良 イ 紫式部 ウ 小野妹子

- (5) 清少納言は、身の回りのものごと、自然のおもむき、宮廷内でのできごとなどを、するどい観察力と貴族の女性らしい洗練された感覚で書きあらわしました。

ア 古今和歌集 イ 古事記 ウ 枕草子

- (6) 年中行事や儀式は、貴族にとって大切な勤めでした。そのやり方は細かく決まりや作法が作られていて、貴族はつねにその勉強をしなければなりませんでした。

ア ひな祭り イ 茶の湯 ウ 日記

貴族の時代

名前

学習日

チャレンジ問題

1

次の問いに答えなさい。

- (1) 貴族たちは、いくつもの建物が廊下^{ろうか}でつながった大きな家と、自然の美しさを取り入れた庭のある広いやしきに住んでいました。この広いやしきの建て方を何といいますか。答えなさい。

- (2) 平安時代には、日本ふうの文化が生まれ、紫式部^{むらさきしきぶ}がそのころ書いた作品は、今世界じゅうで読まれています。この作品を答えなさい。

- (3) 紫式部と同じ時代、「枕草子^{まくらのそうし}」を書いた人物を答えなさい。

- (4) (2)の作品や「枕草子」は、平安時代に生み出された文字で書かれ、それまでの書物よりも日本人の感情がより細やかに表現されているといわれます。どのような文字で書かれましたか。答えなさい。

- (5) 紫式部をはじめ、この時代の貴族の女性は、着物を何枚も重ねて色や模様の合わせ方を楽しみました。このような服装^{ふくそう}を何といいますか。答えなさい。

2

次の(1)～(3)のうち、平安時代のことがらではないものをそれぞれ2つ選び、記号で答えなさい。

- (1) ア 俳句^{はいく} イ 日記文学 ウ 竹取物語^{たけとり} エ 水墨画^{すいぼくが} オ 藤原頼通^{ふじわらのよりみち}

- (2) ア 茶の湯 イ 書院造^{しょいんづくり} ウ 大和絵^{やまとえ} エ 平等院鳳凰堂^{びやうどういんほうおうどう} オ 絵巻物^{えまきもの}

- (3) ア けまり イ お月見 ウ ひな祭り エ 銀閣^{ぎんかく} オ 歌舞伎^{かぶき}

3

藤原道長がよんだ次のうたには、どのような気持ちがこめられていますか。ア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

「この世をば わが世とぞ思う もち月の かけたることも なしと思えば」

- ア 今夜の月は満月で大変美しいが、月が欠けていくように私の人生もおとろえていくだろうとなげき悲しむ気持ち。



- イ わたしが生きているこの時代は、月見などの風流な行事が楽しめて、大変よい時代であると満足する気持ち。

- ウ 今夜の月はまったく欠けたところのない満月であり、大変美しいと感動する気持ち。

- エ 自分にとってめでたいことが次々と起き、この世が自分のものだと思うほど満足だという気持ち。

貴族の時代

【基本問題】

解 答	ア ド バ イ ス
<div></div> <div>(1) ウ (2) ア (3) ア (4) イ (5) ウ (6) ア</div>	<div></div> <div>(3) 現在の^{きょうと}京都府にある^{びやうどういんほうおうどう}平等院鳳凰堂は仏教の寺院ですが、もとは^{へいあんきぞく}平安貴族の別荘として建てられたものでした。^{ほうおう}鳳凰という鳥が羽を広げたように見えることから、この名があります。</div> <div>(6) 貴族は1年を通して非常にたくさんの行事や^{ぎしき}儀式を行いました。七夕やひな祭り、衣がえなど、わたしたちの生活にもそのなごりが多く残っています。日記をつけることは個人の好きずきで、行事ではありませんでした。</div>

貴族の時代

【チャレンジ問題】

解 答	ア ド バ イ ス
<div>1</div> <div>(1) 寝殿造<small>しんでんづくり</small></div> <div>(2) 源氏物語<small>げんじ</small></div> <div>(3) 清少納言<small>せいしょうなごん</small></div> <div>(4) かな文字</div> <div>(5) 十二単<small>じゅうにひとえ</small></div> <div>2</div> <div>(1) ア, エ</div> <div>(2) ア, イ</div> <div>(3) エ, オ</div> <div>3</div> <div>エ</div>	<div>1</div> <div>(4) かな文字が発明されるまでは、書物はすべて漢字で書かれていて、日本人が自由自在に文章を書くのには不向きでした。</div> <div>(5) 貴族の男子は束帯<small>そくたい</small>、女子は十二単<small>じゅうにひとえ</small>という、日本独自の服装<small>ふくそう</small>が生まれました。</div> <div>2</div> <div>(1) 『竹取物語』は平安時代に書かれたかぐや姫<small>ひめ</small>の物語で、作者は不明とされています。</div> <div>3</div> <div><small>ふじわらのみちなが</small>藤原道長のむすめが天皇のきさきになったときに、大勢の貴族の前でよんだ歌です。</div>